

14 駿河台校舎図書館建築の件認可

〔昭和五年七月〕

(注記1) 図書館建築認可申請書

(注記2) 今般本大学図書館ヲ別紙図面及仕様書ノ通り建築致度候ニ付御認可相成度関係書類相添へ此段及申請候也

昭和五年五月十九日

財団法人 中央大学

学長 原嘉道 印

(注記3)

文部大臣 田中隆三殿

建築要項

一、総延坪 八四八、二二一坪

一、建築種類 鉄筋コンクリート造り、地階共四階建

一、工費予算 一九一、五八〇円

支出方法ハ借入金ヲ以ツテ之レニ当テ、借入金ハ寄附金ヲ以ツテ漸次返済

一、建物内訳

| 種別 | 室数 | 坪 | 数 | 備考 |
|------|----|---|-----|----|
| 玄関 | 一 | | 三坪 | 地階 |
| 下駄置場 | 一 | | 八八九 | |
| | | | 八六一 | 同 |

(下 札)

案

中央大学設立者

財団法人 中央大学

昭和五年五月十九日申請附属図書館建築ノ件認可ス

年 月 日 文部大臣

備考

- 一、建築種類 鉄筋コンクリート四階建（地階共）
 - 二、坪数 延坪八四八坪二二
 - 三、建物内訳（別紙ノ通り）
 - 四、工費予算 一九一、五八〇円
 - 五、工費材源 一時借入金ヲ以テ之レヲ支弁シ寄附金ヲ以テ漸次返済ノ予定（約五年間）
 - 六、起工 昭和五年五月
 - 七、竣工 昭和五年十一月末ノ予定
- 本件ハ予メ建築課ノ内閣ヲ経タルモノトス

〔表紙〕

中央大学図書館新築工事示方書

中央大学図書館新築工事示方書

名称 構造 階数 建坪又ハ数 延坪又ハ数
 本館 鉄筋コンクリート造 階共四 二七、坪三六 五〇〇、坪四三

書庫全 上全 上 八、坪三三 三七、坪六〇

計 渡廊下 鉄骨ラス張モルタル塗 四坪〇

地階 入ロスロ₁及階₂モルタル塗 一〇面坪

通門 鉄 製 一箇所

校庭通用門 鉄 製 一箇所

鉄柵 鉄 製 一五間五〇

東側塀 鉄 製 一四間

非常口扉 鉄 製 一箇所

中庭叩キ 煉瓦敷 煉瓦敷 三、面坪五

電灯工事 配管配線器具一式新設 一式

衛生工事 配管器具一式新設 一式

リフト工事 電動機共一式新設 一式

換気工事 新設 一式

屋外排水工事 新設 一式

避雷針 新設 一式

仕様概要

(一) 軒高 (南側)地盤面ヨリパラベット 五寸五十六尺

上端迄 (北側)全 上 五十一尺五寸

(二) 最高部 (正面階段塔)全 上 六十三尺

(三) 基礎 栗石入地形鉄筋「コンクリート」造

(四) 軸部 鉄筋(一部鉄骨)「コンクリート」造

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|-----|--------|-----------------|--------|-----------------|-----------------|-----|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----|-----------------|-----------------|
| 階段室 | 第四階 | 化粧室及便所 | 廊下 | 予備室 | 階段室 | 研究室 | 第三階 | 中二階階段室 | 廊下 | 化粧室及便所 | 目録室 | 書庫 | 階段室 | 貸出室 | 閲覧室 | 予備室 | 第二階 | 中二階階段室 | 各廊下 |
| テラゾー | | テラゾウナ | テラゾウシ | モルタル | テラゾウ | リノリウム | | テラゾー | テラゾー | テラゾー | テラゾー | テラゾー | テラゾー | テラゾー | 板張 | リノリウム | | テラゾウ | テラゾウ |
| 色プラスチック 高三・〇 | | 高四・五 | 色プラスチック 高四・五 | プラスチック | 色プラスチック 高四・五 | 色プラスチック 高四・五 | | 色プラスチック 高四・五 | 色プラスチック 高四・五 | 色プラスチック 高四・五 | 色プラスチック 高四・五 | 色プラスチック 高四・五 | 色プラスチック 高四・五 | 色プラスチック 高四・五 | 色プラスチック 高四・五 | 色プラスチック 高四・五 | | 色プラスチック 高四・五 | 色プラスチック 高四・五 |
| プラスチック | | プラスチック | プラスチック | プラスチック | プラスチック | プラスチック | | プラスチック | プラスチック | プラスチック | プラスチック | プラスチック | プラスチック | プラスチック | プラスチック | プラスチック | | プラスチック | プラスチック |
| プラスチック | | プラスチック | プラスチック | プラスチック | プラスチック | プラスチック | | プラスチック | プラスチック | プラスチック | プラスチック | プラスチック | プラスチック | プラスチック | プラスチック | プラスチック | | プラスチック | プラスチック |

示方書目次

一 総則及工事設功期限 九 金物及鋸工事

- 二 仮設及基礎工事 十 防水防湿工事
- 三 混凝土工事 十一 木工事
- 四 鉄筋工事 十二 左官工事
- 五 型枠工事 十三 建具工事
- 六 鉄骨工事 十四 硝子工事
- 七 石及煉瓦工事 十五 塗師工事
- 八 タイル及テラカッタ工事 十六 雑工事

右仕様

(1) 総則及工事竣工期限

イ、竣工期限 本工事ハ昭和五年四月契約ノ日より起算シ百
(抹消)(加筆)
(〇)(七)十日間ニ全部竣工引渡シヲ為スヘキ(抹消)ノトス
 但シ工事ノ竣工トハ建築工事ヲ完成シ仮設物及残材ノ取払
 ヒ取片付ケヲ終リ検査ノ上合格ト認メタル時ヲ請ヒ引渡シ
 トハ全部ノ戸締リヲ完成シ鍵ノ引継キヲ受ケタル時ヲ謂フ
 ロ、工事工程 本工事ノ工程ハ大体右ノ如ク請負者ハ本工程遂
 行ニ必要ナル設備、現場計画ヲ精密精確ニ図面ニ示シ契約
 後拾日以内ニ提出シ(抹消)(当字)及監督技師ノ承認ヲ
 受クヘシ

右図面上ニハ左記設備ニ対スル数量及位置ヲ明示スヘシ

- 一、砂利及砂置場
- 二、ミクサー及エレベーターノ位置
- 三、セメント仮倉庫及水道栓
- 四、足場コンクリート施工順序、同連搬路

五、型枠構造詳細及矢板土留工計画

ハ、測量及水盛遺形 工事遂行上必要ナル測量水盛遺形等ハ凡テ請負者ノ負担トシ工事ニ着手セントスル時事前ニ監督技師ノ検査若クハ承認ヲ受クヘキモノトス

ニ、請負者及代理者 請負者ハ自身毎日現場ニ出頭シ全般ノ指揮ニ任スヘキヲ原則トス万一差支アル場合ハ工事実施ニ最モ堪能ニシテ充分ノ経験ヲ有スル代理者ヲ現場ニ出務セシメ遅滞ナク施工ノ順序方法並ニ設備ニ関スル諸般ノ指揮、従業者ノ配及督励等一切ノ責任ヲ負ヒ連日毫無遅滞ナカラシメ工事ノ完全ニシテ円滑ナル進捗ヲ期スヘシ

ホ、監督技師ハ不適當ト認ムル代人、下請業者又ハ職工等ノ出場ヲ禁止スル事ヲ此場合請負者ハ敏速ニ適當ナル代理者ヲ別ニ撰任ノ責ヲ有ス

ヘ、本工事ニ要スル左記ノ材料ハ現場附近適當ノ位置ニ於テ
(抹消) (加筆)
(支) 給トス
(抹消) (加筆)
 一、セメント (抹消) (加筆) [建築軀体用参千八百樽]
 其保管、小運般ヨリ加工取付迄請負者ノ負担トス

(2) 仮設及基礎工事

イ、水盛遺形 建物周囲及主要点ニ於テ壁面線柱中心線及高低差等ヲ測定スルノ必要上堅固ナル遺形ヲ施シ正確ナル水盛心墨ヲ明示シ建築工事中正確ニ保存スヘシ

建築骨格ニ於ケル精密度ハ水平垂直共千分ノ一以内トス
 足代及棧橋 各種工事用足代及棧橋ノ堅地、布筋違及切立

等ハ杉丸太目通り四寸以上ノモノヲ用ヒ各部堅固ニ針金ニテ給付ケ歩行板、棚板等ハ厚一寸二分以上ノ平板又ハ同等以上ノ背板類ヲ用ヒ要所釘打鏧止メ又ハ鉄線ニテ結束シ凡テ木工事ヲ容易ニ迅速ニ進行為シ得ル様施設スヘシ

ハ、仮小屋及倉庫 各職下小屋監督 (抹消) 詰所、店員詰所仮倉庫等ハ延坪約五拾坪ヲ下ラサル程度ニ於テ各々其大サヲ定メ取設ケ工事竣功ノ上ハ之レヲ取払フモノトス

其構造及坪数ニ関シテハ予メ監督員ノ承認ヲ受クヘシ
 セメント倉庫ハ特ニ床羽目ヲ二重トシ防湿構造ト為ス事ヲ要ス

ニ、建物ノ四隣人家及通行人畜ニ危害ヲ及ホサズル様屋根迄全部外囲ヒヲ為スヘシ、其構造ハ縦横共頑丈ナル足代ヲ組ミ其外面ニ亜鉛鍍鉄線十六番八分目亀甲 (抹消) 網ヲ張り道路沿ヒノ部分ハ内面ニ葎簧ヲ張り人家屋根上部ニ於テハ楯板陸棚ヲ構ヘ前記同断ノ防禦ヲ為シ必要ニ応シキャンパス布ヲ以テ材料物件塵芥等ノ飛散ヲ完全ニ防キ四隣ノ人畜物件ニ対シ安全ヲ期スヘシ

ホ、損害補償 本工事ニ関シ不注意又ハ施工上ノ欠陥ヨリ隣地若シクハ隣接工作物ヲ毀損シ通行者従業員等ニ損害ヲ生セシメタル場合ハ凡テ請負者ニ於テ自費ヲ以テ之レヲ解決シ其補償上ノ全責任ヲ負フヘキモノトス

ヘ、根伐及埋戻

地上障害物除去ノ後根伐ニ着手シ埋戻ニ必要ノ土砂ヲ附近ニ残シ他ハ敷 (抹消) 指定ノ場所ヘ数均シ埋戻シノ分共有

レモ丁寧ニ蝸突ヲナシ地固ヲナスヘシ

ト、根伐中出水ノ場合ハハンドポンプヲ用ヒ水替ヲナスヘシ、コンクリート工事施工中ハ昼夜共排水ヲ行ヒ硬化前ノコンクリートヲ水中ニ没セサル様注意ヲナスヘシ

チ、割栗石搗キ固メ

根伐内一般土砂ハ示定ノ深サニ伐取り平ヲニ浚シ尚腐土ヲ有スル部分ハ新規良砂ト置キ換ヘ蝸突ヲ為ス、根伐ノ表面ニハ全部ニ亘リ厚サ三寸通り硬質ノ砂利ヲ撒布シ重量四十分目以上ノ大蝸ヲ以テ搗キ固メ所定ノ高サニ不陸ナキ様打均スベシ

階段下、敲キ下等モ其程度ニ於テ充分砂利撒キ地形搗固メヲナスベシ

リ、均シ「コンクリート」

鉄筋「コンクリート」下其他ノ下地用均シ「コンクリート」ハ調合「セメント」一、川砂三、洗砂利六、トス、先ヅ地形面上ニ撒水シ充分湿気ヲ保タシメタル上ニ均シ「コンクリート」ヲ施工スルモノニシテ凡テ機械練リトス其混打方法練合時間及施工方法等ハ次章混凝土工事ノ各項ニ準拠スベキモノトス

ヌ、基礎防湿工事

本館及書庫基礎共均シ「コンクリート」上面ヲ充分火熱乾燥ニヨリ湿気ヲ除キタル上ニ直チニ純良アスファルト溶液ヲ流シ厚一分ニ塗立テ其ノ上面ニ乾砂ヲ撒布シ歩行ノ際傷害並ニ粘着ヲ避クベシ

建物基礎鉄筋「コンクリート」ハ此ノ上ニ施工スルモノニ

シテ「フーチング」及壁外面ハ同上純「アスファルト」液ヲ一分厚ニ完全ニ塗付クベシ

但シ壁面ハ塗布前火熱乾燥ヲ施スベキモノトス

ル、床下地下撒水工事

本館及書庫地下室基礎逆梁内指定ノ位置ニ於テ直^(マ)径三寸^(マ)鉄管ヲ埋込ミ洩水排除ノ用トスベシ、右建物ノ各一隅ニハ一尺角深サ一尺五寸ノ「ピット」ヲ作り洩水ヲ「ピット」ニ誘ビキ得ル様適當ノ勾配ヲ付ス、「ピット」及周囲ハ防水完全ニシテ鑄鉄製ノ蓋ヲ用意スベシ詳細ハ現寸図ニヨリ決定スルモノトス

混 凝 土 工 事

イ、セメントハ^(抹)〔^(滑)〕^(加筆)〔^(当)字〕ヨリ支給ス、セメント老立方

呎ハ重量九拾五封度ヲ以テ計量ス

ロ、砂(細骨材)

鋭稜ヲ有シ且ツ各粒共天然分解面ヲ保有スルコトナク又塩分、粘土白堊、石灰、塵芥其他ノ不純物ヲ含有セサル粗目川砂トス、粒大ハ四番(二分方眼)篩目ヲ通過シ八番篩目以下ニ残留スル砂粒トス、微細砂ハ使用スヘカラス、細骨材ノ細率ハ三ヲ以テ標準トスヘキモ其ノ細率試験表ヲ提出シ使用可否ノ決定ヲ受クヘシ

ハ、砂利(粗骨材)

堅硬質ニシテ細長カラス清浄ナル川砂利トシ塩分塵芥等ノ

混入ナキモノトス、粒大ハ式分以上六分以内ニシテ篩分試
験ニ於テ大分篩目上ニ止マルモノ式割以内、三分篩目上ニ
残留スルモノ六割五分内外更ニ四番目上ニ残留スルモノ十
割ヲ標準トス

ニ、水

市水道清水又ハ塩分酸性アルカリ性物質ヲ含マサル井水ト
ス

ホ、調合

鉄筋コンクリートハ重量比ニ於テ一、一、二、一四ノ調合トシ
基礎均シコンクリート防水押ヘコンクリート並ニシンダー、
コンクリートハ凡テ重量比ニ於テ一、一、三、一五ノ調合トス
ヘシ

ヘ、地中壁コンクリートハ〔抹消〕セメント防水剤〔ロータス〕

ヲ使用ス其ノ量ハセメント量ニ対シ壹パーセント及優良微
粉消石灰ヲ五パーセント混入スルモノトス
ト、コンクリート用水量

コンクリートニ使用スヘキ水量ハ尤モ厳密一定ニ計リ且ツ
常ニ砂ノ湿度ヲ検査シイナンデイトセル状態時ノ砂容積ニ
於テコンクリート容積ニ対シ二十パーセントヲ超過スヘカ
ラス

標準混和水量ハ水―セメント比ニ拠ルモノニシテ其ノ比

○、〔五七〕〔八〕^(抹消) ^(加筆) 即チコンクリートノ材齡四週間目ニ於テ

一平方吋ニツキ二千五百封度ヲ下ラサル抗压強度ヲ保有ス

ヘキモノトス、右比率ハセメント一樽ニ対シ水量六斗(セ
メント一立方呎ニツキ水量一斗五升)ヲ混和スヘキヲ原則
トス

用水量ノ多寡ハコンクリート強度ニ著シキ変化ヲ生スヘキ
ヲ以テ此ノ加減ヲ職工ノ手ニ一任スヘカラス、相当ノ責任
者ヲ定メ嚴重ニ之ヲ取締リ励行スヘキモノトス

チ、練方ウオーカビリチー及試験

全部機械練トシミクサーノ容量ハ拾切練以上トシ一階ノコ
ンクリート打ヲ指定日数内ニ終了スル様計畫スヘシ、使用
水量及砂量ノ正確ヲ期スルハ勿論セメント計量ニモ細心ノ
注意ヲ払ヒコンクリート全部ニ亘リ均一ナル強度ヲ期シ得
ル様練合スヘシ

ミクサー一〔□〕^(抹消)ノ練量ニ対スル混和時間ハ式分間ヲ下ル
ヘカラス、練方ノ適否ヲ検定スル為メコンクリートノウオ
ーカビリチーヲ測定スヘキニヨリ請負者ハスランプ試験及

フロー試験ニ必要ナル設備ヲ施スヘキモノトス
コンクリートハ毎打立当日其ノ適當ナルウオーカビリチー
測定ノ為メスランプ及ヒフロー試験ヲ施スヘキ様請負者ハ

スランプテスト容器、全附属品、フローテーブル及同附属
品並ニ抗压試供体鉄型(直径六吋高サ十二吋)六個ヲ用意
スルモノトス

練合セタルコンクリートハスランプ七吋半以内フロー二〇

○パーセント以内タルヘシ

此ノ規定以上ノスランプ及フローヲ有スル軟練コンクリー

トハ工事ニ使用ヲ避ケ別ニセメント及骨材ヲ加ヘ更ニ繰返
スヘシ、監督員ノ適当ト認ムルウオーカビリチーヲ有スル
コンクリート質タラシムヘシ

請負者ハコンクリート打立日毎ニ抗圧試験用供試体三個宛
ヲ製作シ之レヲ〔抹消〕〔加筆〕〔当学〕ニ提出シ其ノ抗圧試験ヲ

受クヘキモノトス

但抗圧試験費用ハ請負者ノ負担〔抹消〕トス

リ、運搬

ミクサーヨリ排出セル練立コンクリートハコンクリート分
配塔ニヨリ巻上ケ所要ノ位置ニ於テフローワーホッパーニ
受ケ取り夫レヨリ三切乃至四切入運搬鉄車ニ依リテ打立テ
個所ニ小運搬打立ツルモノトス

運搬車通行用トシテ別ニ木製道板ヲ用意シ配列セル鉄筋其
他ヲ乱雑ナラシメサル様充分ノ注意ヲナスヘシ

ス、打方

仮枠内面ハ充分掃除水洗ヒヲナシ適當ノ湿氣ヲ保タシメタ
ル後運搬車ニヨリ静カニコンクリートヲ流シ込ミ其際充分
ニ搗キ固メ気泡滯水等ナキ様入念ニ施工スヘシ

打終リ面ハ濡蕙類ヲ以テ覆ヒ直チニ乾燥又ハ寒氣ニ対シ完
全ナル養生ヲ為スヘシ、打立後三日間ハ朝夕二回撒水ヲナ
スハ勿論打立後五日間ハ震動ヲ与ヘサル様特ニ注意スヘシ
冬季気温摂氏四度以下ニシテ凍結ノ虞アルトキハコンクリ
ート工事ヲ施スヘカラス

ル、材料貯蔵

現場ノ空地ニハ砂利セメント等大量ノ貯蔵場所ヲ有セサル
場合ニハ近傍ノ空地ニ適當ナル設備ヲナシ夫々四五日分ノ
材料ヲ貯蔵シ得ルカ如クシ不時ノ要求ニ応スル様予メ注意
ヲ怠ルヘカラス

オ、鉄筋コンクリート施工方法

施工ニ際シテハ次ノ各項ヲ遵守シ良質ノコンクリート製出
打立テニ努力為スヘシ

一、軀体工、建築ノ軀体工ハ凡テ何等特別ノ仕上法ヲ施サ

バル旨意ヲ原則トシコンクリートヲ施工為スヘシ故ニ型
枠ニ充分ノ注意ヲ払ヒ又コンクリートハ餘リ乾練リニ失

スヘカラス從ツテ其表面ハ多孔質海綿状タルヲ許サス
但シ建築物内面共ニ斯ノ如キ欠点ヲ生シタル場合ニハ之

レヲ切取り修理スルカ或ハ程度ノ輕キモノハ斑ナキ様一
パネル全面ヲガナイトスヘシ、ノツヅル先端ニ於テ四拾

封度以上ノ圧力ヲ有シ且練達セル職工ヲシテ施工セシム
ヘシ

二、注入及打方、壁体及柱ノコンクリートハ高サ約三四尺
毎ニ打込ミ層々、相凝着シ一体トナリ且鉄筋ノ周囲及間

隔ヲ搗キ固メ気泡ヲ排出シ型枠内ノ各部ヲ充滿セシムヘ
シ、鉄筋相互間及鉄筋ト型枠トノ間ニハ細鉄棒ヲ入レ充

分打突キ性質一樣ノコンクリートヲ製作スヘシ、壁体ヲ
施工スル場合ニハ約三尺乃至四尺毎ニ横ニ通シ開口ノ部

分ハ型枠ニ作りコンクリート打ヲ充分検査見届ケ得ル方
法ニテ進ムモノトス

三、練返シコンクリートハ運搬ノ途中ニ於テ成分ノ分離ヲ

起スモノナルヲ以テ其動作ハ敏速ナルヲ要シ運搬ノ距離長ク又ハ其他ノ事情ニヨリ分離ノ虞アル場合ニハ注入前練板(鉄板製)ヲ準備為シ茲ニ於テ再ヒ練返シヲ為スヘシ、如何ナル場合ヲ問ハス初メノ注水練立後一時間以上ヲ経過シタルコンクリートハ本工事ニ使用スヘカラス

四、柱及壁 柱及壁体コンクリートハ一回ノ施工高約三尺

トシ順次上層ニ連続コンクリート打ヲ施工スヘシ、而シテ全階高ハ一日間ニ施工スルモノトス

(抹消)(加筆) 柱ノ(打) 継個所ヲ少ナカラシメ連日

コンクリート工ヲ施シ指定定期内ニ完成セシムヘシ

五、床及屋根スラブ工 床及屋根スラブコンクリートハ一

階分一日ヲ以テ全部打立ツヘシ

六、打継 既ニ凝固シタルコンクリート面上(柱及壁体類)

或ハ之(抹消)(加筆) 接続シテ新ニコンクリート工ヲ施工ス

場合ニハ既設コンクリート面ヲ検査シセメント残滓タル

レータンスヲ止メサルタメ接続面ハ厚八分通り必ス翌日

削り取り全部掻キ荒シ之レヲ粗面ナラシメ且不純分ハ一

切之レヲ取り去リ純セメント溶液ヲ全面ニ塗布シタル後

次回コンクリート(抹消)(加筆) 突キ固メニ際

シテハ特ニ注意ヲ加フヘシ、斯カル場合ノ接手補助筋ハ

直径五分乃至六分丸棒ヲコンクリート断面ニ対シ柱及壁

ニアリテハ千分ノ八床及梁ニ対シテハ百分ノ一以上ヲ標

準トシ計算ニ依リ其量ヲ決定シ挿入スヘシ

ワ、型枠取外シ期間

| | | | |
|------------|----|-------|--------|
| 基礎コンクリート及壁 | 晴天 | 七昼夜以上 | 荷重ナキ場合 |
| 柱 | " | 十四 " | " |
| ス | ラ | 二十一 | " |
| 梁 | 底 | 二十八 | " |

但シ梁側板ハ約十昼夜以上ヲ経過セハ取外スコトヲ得

鉄筋工事

イ、材料

鉄筋ハ凡テオーブンハルス法ニヨリテ製出セル中軟鋼ニシテ信用アル製造所製品タルヘシ、過炭素鋼及ベッセメル法ニヨリ製造セル鋼ハ之ヲ絶対ニ使用スヘカラス

鋼材一平方吋ニ対スル弾性強度ハ三万六千封度以上最大抗

張強度五万五千封度以上伸張率ハ八吋ノ長サヲ以テ二割以

上ニシテ無瑕ノモノトス、尚屈曲ニ際シ(抹消)(加筆) 曲九十度ニ

テ内外面共ニ亀裂ヲ生セサルモノタルヘシ

長径間梁用主筋ハ長サ一本物ト為スヘシ従ツテ丸棒ニシテ

長尺モノヲ得ラレサル場合ニハデフォームドバーヲ指定ス

ル事アルヘシ

ロ、試験

現場納入材料中ヨリ監督員任意撰出ニ係ル試験片ヲ指定工

業試験所ニ送り規定試験ヲ受クヘシ、若シ其試験成績カ前

記耐力ニ達セサルモノアル時ハ其試験片ト同径同格ナル納

入材料ノ全部ヲ使用スヘカラス

ハ、加工

鉄筋材ニハ油塵芥ペイント等ヲ絶対ニ附着セシムヘカラス、又浮錆ハ使用前之ヲ剝落シ錆片ヲ止ムヘカラス

鉄筋ノ曲ケ方ニハ實際大ノ作業用現寸図ヲ作り検査ヲ受ケバーベンダーヲ使用シ冷状ニテ屈曲スヘシ、屈曲部半径ハ凡テバーノ直径ノ五倍以上トナシ其両端部ハ大小ヲ問ハス主筋ハ釣状細筋ハ九十度ニ曲クヘシ

ニ、組立

鉄筋組立テニ先チ仮枠内面ヲ充分掃除スヘシ、組立テニ當リ其位置間隔、重ネ共図面ト対照精確ニ一致セシムヘク主鉄筋相互ノ交叉点ハ二十番鉄線二条宛ヲ以テ×形ニ緊結シスラブ鉄筋ハ主要部ニ於テ交叉点若ケ所置キニ千鳥ニ緊結シ且ツコンクリート施工中鉄筋ノ位置ヲ移動セシムル事ナキ様予メ指定寸法ノコンクリート塊又ハ針金製特種スペーサーニ依リ監督員ノ指図ニ從ヒ各場所毎ニ適當最善ナル方法ヲ講スヘシスターラップ等ノ細筋緊結ハ二十番鉄線一条トナス事ヲ得

ホ、鉄筋継手

鉄筋材ハ梁用ノモノニ對シテハ絶対ニ鍛接又ハ鎔接スヘカラス、長キ梁ノ鉄筋材ヲ得サル時ハ特ニ指定セルデフォォームドバーヲ使用スルモノトス

軸鉄筋ニ對シテハ図面指示ノ位置ニ於テ各鉄筋端ヲ釣状ニ曲ケ両端ノ重ネ合セ長サヲ直径ノ三十倍以上トシ三ヶ所ニ於テ緊結シ対照的位置ニ斯ノ如キ添筋ヲ有セサル配列ヲ工

夫シ施工為スモノトス

ヘ、鉄筋材純間隔

鉄筋材ハ凡テ型枠ノ内面ヨリ純間隔一吋以内ニ接近シテ配置スヘカラス

梁主筋ハ型面ヨリ指示ノ位置ニ正確ニ位シ又鉄筋ト鉄筋トノ純間隔ハ図面ニ從ヒ正確ニ並ヘ如何ナル場合ヲ問ハス二吋以下トスヘカラス、横鉄筋〔並〕^(抹消)ニスターラップ等ハ軸鉄筋及主鉄筋ト完全ニ密接スル様組堅メ二十番鉄線ニテ緊結スヘシ

ト、軸鉄筋

柱ノ軸鉄筋ハ一ヶ所ニ於テ半数以上ヲ接合スヘカラス、万止ムヲ得サル場合ハ其位置ハ床面ヨリ三尺以上ノ部分ニ於テシ其方法ハ図面ニ從フヘシ、円柱用スパイラル筋ハ予メ指定ノ方法ニヨリテ之ヲ製作シ其両端ハ軸筋ニ必ス釣留シ且ツ完全ニ密着セシムヘシ、軸筋タイ及スターラップハ正形ニ曲ケ水平ノ位置ニ正シク結ヒ付ケ且軸筋ト密接セシメ其不整及不馴染ヲ許サス

チ、梁主筋

梁及桁等ニ使用スヘキ主鉄筋及桁ニ挿入スヘキ曲上筋ハ如何ナル場合ヲ問ハス共ニ真直ナルハ勿論相互並ニ型枠ノ両側板ト正シク並行ニ配列スヘシ

梁ノ主筋ハ型底板ノ反リト平行セシムヘカラス

梁ニ使用スヘキ正鉄筋及負鉄筋ノ高度ハ尤モ正確ナラシムヘシ

リ、スラブ鉄筋配置法

スラブ鉄筋ニ先立ち床型面上ニ於テ設計図ニ依リ配筋位置
墨打ヲ施シ各鉄筋ノ位置間隔及ヒ教ヲ正確ニ明示シ監督員
ノ検査ヲ受ケタル上配筋ニ着手スヘシ、スラブ筋ハ特ニ床
型面ヨリノ高度ヲ正確ニシ鉄筋交叉点五個所ニ対シ一ケ宛
ノ割合ニコンクリート塊ヲ使用スルモノトス

スラブ鉄筋ノ両端ハ梁ノ負鉄筋並ニ抗圧筋上ニ正確ニ密接
シテ配置シ且ツ充分緊結スヘシ、但シ此ノ場合ニハ梁鉄筋
ノ高度ヲ充分ニ検査シ其ノ低下セル梁負鉄筋、抗圧鉄筋上
ニ取付クルヘカラス、スラブ鉄筋ノ正当ナル高度ヲ測リ之
レヲ配置スヘク從ツテスラブ強度ノ減殺ヲ来スヘカラス。

型枠工事

イ、材料

全部米松材ヲ使用シ新規材ヲ指定階適用意シ繰返シ使用シ
上階ニ於テ多少ノ補足ヲ為スニ止マル様工夫架構スルモノ
トス、板ハ正七分厚以上梁底板及柱型板ハ厚正一寸以上棧
及根太ハ四吋角二ツ割支柱及腹起シハ四吋角以上床板及円
柱型枠ハ鉄板ヲ以テ代用スル事アルヘシ、框式型板ニ対シ
テハ板厚ヲ減スル事ヲ得

ロ、下拵取付

型枠構造方法及支柱配置等ニ関シテハ予メ着手前図面製作
ノ上監督員ノ承認ヲ受クヘシ、型枠ハ出来得ル限り其形状
ノ仮更ニ上階ニ利用スル事ヲ得ル如ク計画シ全部図面ニ做

ヒ製作スルモノトス、取付及取外シノ際コンクリート軀体
ノ損傷セサル様留意スルハ勿論型枠ノ損傷ヲモ注意シ取外
シノ際毀損ヲ生シタルモノハ再用ノ際完全ナル補修ヲ為シ
使用スヘシ

下拵ヘハ下小屋ニ於テ為シ一階ノコンクリート打開始ニ当
リ次階ノ下拵ヘ全部カ完成サル、様順序能ク取運フヘシ、
型枠ハ内面機械鉋削リトナシ合端完全ニ密着セシメ各部堅
牢ニ固定シ運搬及コンクリート打立等ニ際シ些ノ移動變形
ハ勿論継キ合口ハ凡テ完全水密ニ造リコンクリートノ水分
ヲ漏出スル事ナカラシメ梁形等ハ釘打ヲ避ケクランプヲ使
用シ幅広モノハ捨ボールト締メトナシ梁ノ両側板ハコンク
リート打立後約五昼夜ノ後容易ニ取外シ得ル様考案スルモ
ノトス

ハ、型枠検査

コンクリート工事ニ着手スルニ先チ型枠及仮架構支柱等ハ
凡テ精密ニ其高サ及通リ（水平垂直）ヲ検査シ型枠ノ内面
ハ平滑清浄ナラシメ些少タリトモ塵芥鉋屑及泥土類ヲ止メ
スコンクリート自体ノ重量ノタメ些ノ狂ヒ歪等ヲ許サス、
尚掃除ノ為メ柱梁壁ノ型枠底部ニ一時的相当大ノ孔ヲ明ケ
脚部ニ塵芥ノ有無ヲ検査シ且ツ掃除用水ノ流出ニ便ナラシ
ムヘシ

但シコンクリートヲ打立ツル際ニハ之等ノ孔ヲ完全ニ閉塞
スヘシ

ニ、型枠掃除及反リ

コンクリート工ヲ施ス直前ニ清水ヲ以テ型ノ内面ヲ湿潤ナ
ラシムヘシ此ノ場合ニハポンプ及ホースヲ使用スヘシ
其目的ハ型枠カコンクリートノ水分ヲ奪フヲ防止スルト共
ニ型枠間隙ヲ密着セシメ型トコンクリートノ粘着ヲ減少セ
シムルニアリ、梁及スラブ型枠ニハ各径間長ニ対シ約三百
分ノ一ノ反リヲ附シ一々監督員ノ検査ヲ乞ヒ其許可ヲ受ク
ヘシ、但シ張間二十尺以上ニ及フスラブニ対シテハ別ニ之
レヲ指定ス

ホ、工作観念

鉄筋コンクリートハ型枠内ニ鉄筋及コンクリートヲ合理的
ニ〔抹消〕置サレ鑄込マシテ成形スヘキ構造軀体ナリ、従ッ
テ型枠ノ良否、正邪ハ直チニコンクリートノ成形ニ直接ノ
影響ヲ及ホスヘキコトヲ牢記スヘシ、型板相互ノ間隙ハ水
分ノ洩出ヲ伴ヒコンクリートヲ海綿質ト化シ軀体トシテノ
強度ヲ失ヒ永久ノ疾患ヲ残スニ至ル型ノ歪ミハ体形トシテ
計算強度ニ欠陥ヲ生セシム、従ツテ型貯ハ工作組立及締固
メ共密着、正形、堅固ヲ念頭ニ深ク刻ミ確乎タル信念ヲ以
テ施工セシムヘシ従来市井ニ行ハル、カ如キ型枠ヲ以テ標
準又ハ参考トスヘカラス、故ニ型枠及鉄筋共不良ナル加工
歪形ナル組立不堅牢ナル締付ヲナシ苟モ骨格コンクリート
工ニ欠陥ヲ生スヘシト認メラル、型枠工及鉄筋工ニ対シテ
ハ容赦ナク其解体ヲ命シ再築ヲ要求スヘシ
此場合請負者ハ即刻其要求ニ応シ誠実ニ改良ヲ加フヘシ
但シ相当ノ理由アルモノニ対シテハ意見ヲ具シ監督技師ニ

交渉スル事ヲ得。

(7) 石及煉瓦工事

イ、使用箇所

一、花崗石 正面階段親柱及笠石、出入口沓摺石

二、白川石 正面階段段石及根石

ロ、材質、石材ノ品質ハ何レモ風化変色ノ箇所ヲ切除キ寸法正

確ニ矩ノ手正シク無疵ノモノニシテ鉄気ヲ含有セズ組織ノ

不同、雲母ノ見悪キ斑点条線等ナキ色揃ヒノモノタルベシ

ハ、加工、石割図ニ抛リ寸法正確ニ表面ノ仕上ハ見本通り稜角

及曲面正シク上々小叩仕上据付前係員ノ検査ヲ受ケ太柄、

繫鉄物等ノ当リ彫ヲ為スベシ

ニ、据付方法 セメントモルタル調合一、一三トシ位置正確ニ

据エ、合端注ギモルタル充分ニ填充シ表面洗滌ノ上目筋鑿

リヲナシ養生ヲ施シ後化粧目筋平目地トナシ入念ニ仕上グ

可シ

ホ、煉瓦中庭敷 煉瓦ハ焼過二等品、形状寸法正確ナルモノヲ

用ヒ予メ均シ「コンクリート」ノ上へ砂敷キ網代形ニ敷詰

メ表面洗滌ノ上化粧目地共施スベシ

(8) タイル及テラカッタ工事

イ、使用箇所

一、外部貼付用 釉掛^{ツルギ}タイル、本館東側並ニ西側ノ一部、

南側全部一、二階外側通り長手形

二、タペストリタイル地階食堂、腰壁、及柱形、

三、マジヨリカタイル各階便所、洗面所、腰壁、

四、テラカッタ、正面窓、出入口額縁、中央大時計周囲等

ロ、材質 色合光沢硬度形状等何レモ見本品ヲ標準トシ形状寸

法正確ナルベシ、異形彫刻線形(抹消)〔□〕付ノモノハ、原型ニ

テ係員ノ承認ヲ受ケテ工作スルモノトス

ハ、施工、材料ハ現場持込ノ上係員ノ検査ヲ受ケ張付ケ「セメントモルタル」ヲ用ヒ図面ニ倣ヒ目地割ヲナシ下地充分掃

除ノ上遺形ニ倣ヒ隅々手際良ク目地幅揃へ縦横通り良ク張付ケ目地整リヲナシ後掃除養生共丁寧ニナスベシ、「テラ

カッタ」取付ハ「コンクリート」内ニ予メ鉄線ヲ埋込ミ締付ケ「セメントモルタル」ヲ填充スベシ、全部張付完成ノ

上は清水ヲ以テ汚染ヲ洗滌シ純セメントヲ以テ入念ニ化粧目地ヲ施スベシ、

(9) 金物及鋳工事

イ、使用個所

一、鍊鉄及鑄鉄 正面玄関入口廻り甲階段手摺、塔屋硝子

屋根、旗竿、鉄梯子、門扉、鉄柵「ポールト」類、陸屋根

「オーニング」金物、堅樋受金物、

二、「ブロンズ」時計針及文字、

三、真鍮「ブロンズ」仕上、正面階段、電燈器具一对

四、銅板、南側堅樋、樹、鮫鯨、受金物、旗竿、天窓押へ、

五、亜鉛鍍鉄板、堅樋、樹鮫鯨、受金物ハ亜鉛鍍トス

六、鉛板、陸屋根雨落口(厚サ一分)

七、鋼板「ラス」水骨間仕切各階便所天井、

ロ、材質 総テ良質無疵ノモノヲ用ヒ寸法形状図面ニ倣ヒ入念ナル工作トシ線形模様等ハ予メ模型ニ製作シ係員ノ承認ヲ受ケタル後鋳物又ハ組合セラ為スベシ、

正面玄関廻リハ現場取付後「メタリコン」仕上トシ其他鉄部ハ総テ光明丹錆止メ「ペンキ」塗りノ上指定ノ色合ニ参照塗仕上トス

ブロンズ及真鍮「ブロンズ」仕上ノ色合ハ予メ見本品ニ依リ係員ノ承認ヲ受クベシ、

(10) 防水工事

イ、

屋根 下地「コンクリート」上端不陸ノ部分ハ「セメントモルタル」ヲ以テ村直シルナシ左記ノ方法ニ依リ一回毎ニ

万遍ナク「アスファルト」液ヲ以テ密着セシメ特ニ出隅、

入隅、立上リノ部分ハ入念ナル施工ヲナシ押へハ「セメントブロック」及小砂利散布トシ「パラベット」立立リノ部

分ハ「ブロック」押へトス

第一層、ユノロックス

第二層、フェルテックス十五封度

第三層、ユノロックス

第四層、ユニオンハブリック一号

第五層、ユノロックス

第六層、フェルテックス四十封度

第七層、ユノロックス

第八層、セメントブロック又ハ小砂利散布

ロ、地階防水、基礎並ニ柱壁鉄筋「コンクリート」高サ地盤面マデハ防水剤「ロータス」又ハ「ウォータイト」ヲ「コンクリート」中ニ(セメント量ノ百分ノ三)混シ施工スルモノトス

「コンクリート」打継ノ部分ハ特ニ防水剤入り「モルタル」ヲ塗布シ絶体ニ浸水ノナキ様施工スベシ

ハ、内部柱壁、基礎床、床梁等地盤面以下ノ部分ハ前記防水剤入り「セメントモルタル」ヲ厚サ五分以上三回ニ塗付クベシ

ニ、書庫一階及二階外壁ノ内部ハ総テ「コンクリート」面充分乾燥ノ上「カレリアスファルト」一分厚ニ塗付ヲナシ「ローブロック」半枚積トス

ホ、木部造作取付ノ為木煉瓦、埋込「ポルト」等取付ノ為防水層ヲ破壊セル箇所ハ特ニ入念ニ周囲ニ防「水モルタル」^(ママ)塗ヲナシ同「モルタル」ヲ以テ埋込方ヲナスベシ、

(1) 木工事

イ、使用箇所

一、チーク材 甲乙階段手摺

二、塩地材 貸出室、カウンター、出入口、沓摺、

三、檜材 一二階読書室床、巾木、額縁、窓台「ピクチュアーモールド」談話室床、二階読書室

内陳列窓

四、タンギール(白ラワン)材 地階談話室、腰羽目額縁、

柱形等

五、米梅及米松材 窓台、窓出入口枠、額縁「チェアーモールド」「ピクチュアーモールド」等造作材及天井床、野物

ロ、材質 造作材及床フローリング材ハ総テ無節良材ニシテ乾燥充分ナルモノニシテ野物トシテ使用スル材料ハ「コンクリート」型枠材中ヨリ良材ヲ撰出シテ流用スルモ妨ナシ

ハ、工作取付 線彫彫刻ハ現寸図ニ依リ模型型抜製作ノ上係員ノ承認ヲ受ケ工作ニ着手スベシ、仕口取合取付等ハ短冊釘「ポルト」手連金物ヲ用ヒ堅固ニ体裁良ク施工スベシ直接「コンクリート」ニ接スル部分ハ防腐剤「クレゾソート」二回塗トス

(2) 左官工事

イ、使用箇所

一、人造石洗出 本館三階廻り全部彫刻共、中庭壁全部書

庫外壁全部、但シ、一階床下ハ北側全部東側ノ一部「セメントモルタル」塗、本館東側、一階窓台下、

二、人造石研出(テラゾー) 甲乙階段踊場、廊下床、便所洗面所、食堂

三、人造石研出ブロック 甲乙階段蹴込、踏面、巾木、

四、人造石ブロック(外壁用小叩仕上) 南側、西側一階窓台以下柱形、正面大階段側壁

- 五、「セメントモルタル」塗書庫北側及東側ノ一部一階床下「パラペット」内側廊下、倉庫、物置、
- 六、「プラスチック」各室、廊下、階段、便所、壁天井、
- 七、プラスチック「ノロ」引 物置、昇降機通路内部

ロ、材質

- 一、生石灰 焼立後一ヶ月以上経過セヌ未焼石等ノ混入ナク湿気ヲ帯ビザルモノトス、
- 二、毛茛 牛馬又ハ山羊ニシテ長サ六分以上油脂気凝塊等ナク乾燥シタルモノ
- 三、川砂粗粒勝ニシテ塩気泥気ナク塵芥小砂利ヲ篩ヒ去リタルモノトス、
- 四、「プラスチック」 日陶「プラスチック」又ハ之ト同等品トス、
- 五、マニラ茛 油脂気凝塊等無ク乾燥充分ニシテ質強靱ノモノ上茛ハ晒充分ナル真麻晒茛ノ
- 六、大理石碎石、色合ハ明快ナルモノニシテ石粒ハ三分以上ノモノ取混使用スル

ハ、調合及施工法、

一、人造石

| | | | | | |
|---|---|-----|---|-----|---|
| 材 | 料 | 下 | 塗 | 上 | 塗 |
| セ | メ | 二、立 | 方 | 一、立 | 方 |
| 白 | セ | 一、立 | 方 | 四、立 | 方 |
| 川 | 砂 | | | | |

| | | | | |
|---|---|-----|---|---|
| 沸 | 化 | 石 | 灰 | |
| 石 | 粒 | 二、立 | 方 | 尺 |
| 色 | 素 | 適 | 量 | |

調合後一時間以内ニ使用スルモノニシテ下地適當ニ湿潤セシメ下塗鍍押ヘ充分ニ表面平坦ニ定規摺ヲナシ隅々角面定規当テ入念ニ塗立上塗厚二分、鍍押ヘ充分ニ線形目地通り良ク塗り付適當ノ時間ヲ見計ヒ水洗ヲ充分ニナシ塗継、色班等無キ様石粒ノ表面ニ「セメント」ノ附着セヌ様洗方ヲナスベシ

彫刻線形等現場塗り困難ナルモノハ型抜トナシ銅線ヲ以テ引付ケ「セメントモルタル」張トスベシ

二、人造石研出シ(テラゾ)(ブロック)

調合材料前記人造石ニ準ジ現場塗付及「ブロック」ニ製作ノ分モ研出ニハ「サーフェーシングマシン」ヲ用ヒ平坦ニ研出シ角面ノ部分ハ手磨トシ何レモ艶出シニ仕上ノコト

「ブロック」ニハ鉄筋及針金ヲ入レ「セメントモルタル」ニテ下地拵ヲナスモノトス

三、人造石「ブロック」

外壁用「ブロック」ハ前記仕様ニ準ジ鉄筋入り「セメントモルタル」下地ニ花崗石又ハ大理石粉ヲ用ヒ、上塗鍍押ヘ充分ニナシ乾燥後入念ニ小叩キ仕上ヲナシ予メ埋込ノ控金物ニテ堅固ニ取付ケ「セメントモルタル」填充ノ

コト

四、「セメントモルタル」塗

| 材 料 | 下 塗 | 中 塗 | 上 塗 |
|------|-------|-----|-------|
| セメント | 二、立方尺 | | 二、立方尺 |
| 川 砂 | 六、立方尺 | | 六、立方尺 |
| 色 素 | | ○ | 適 量 |

下塗用「モルタル」ニテ外壁ニ使用スルモノハ防水剤ノ混入ヲナスモノトス、

外壁仕上用「モルタル」ニハ適量ノ色素及白「セメント」ヲ混入セシムルヲアルベシ、

下塗上塗共施工法ハ前記人造石ノ仕様ニ準ジ仕上入念ニナスベシ、

五、「プラスチック」

| 材 料 | 下 塗 | 中 塗 | 上 塗 |
|--------|-----|-----|-----|
| プラスチック | 一、〇 | 一、〇 | 一、〇 |
| 石 灰 | 〇、五 | 一、〇 | 一、〇 |
| セメント | 〇、二 | 〇 | |
| 川 砂 | 一、〇 | 三、〇 | |
| コルク粒 | | | |

下地「コンクリート」壁又ハ「ラス」下地共「セメント

モルタル」塗ノ上地「ムラ」ヲ均シ削リ取りノ上噴霧器

其他ノ方法ニテ適當ニ水湿シヲ施シ前調合ヲ清水ニテ能

ク捏り合セ鍍押充分ニ平均ニ塗リ上ゲ一時間乃至二時后

(ママ) 筋ヲ以テ搔キ荒シ充分ニ乾燥セシムベシ(厚サ二分位)

中塗(厚サ三分位)ハ下塗十分乾燥後隅々其他要所へ定

規塗ヲ正確ニ施シ乾燥程度ヲ見計ヒ木鍍摺ヲナシ三時間

程経テ再ビ木鍍摺ヲ施シ筋目一寸置位ニ搔キ付ケ置クベ

シ

上塗(厚サ五厘乃至八厘)中塗十分乾燥セザル程度(乾

燥セル時ハ湿気ヲ与ヘル)ニ木鍍擦鉄鍍擦ヲ為シ表面平

坦ニ隅々真直ニ正確ニ塗リ仕上グベシ

「コルク」粉入り上塗及「スタック」仕上ハ予メ見本品

ヲ提出シテ係員ノ指示ニ依リ施工スベシ

(3) 建具工事

イ、使用個所別表ニ示ス

ロ、材質構造

一、「スチールサッシュ」形状寸法図面ニ倣ヒ何レモ軟鋼

製トシ槌跡其他ノ瑕疵無ク部材取合ハ胴着密着スル様完

全ニ施工シ稔レナキ様組立梓ニハ控足二尺間以内ニ設ケ

堅固ニ取付ノコト連続回転及両開キノ構造トシ開閉具合

良ク工作ノコト

二、スチールドアール唐戸及腰唐戸トシ厚五厘銅鍍板ヲ用ヒ

折曲ケ角々線面正確ニ組立梓及控足付堅固ニ取付ケ開閉

具合良ク工作ノコト

(ママ)

ツターボックス共取設ケ鉄部ハ凡テ錆止光明丹塗ヲ為シ
具合良ク取付ノコト

四、防火扉書庫入口、窓ニハ鉄筋コンクリート造防火扉ヲ
取付ケ粹煙返ハ鉄製ニシテ密着セシメ肘金物ニ勾配付ケ
非常時ニハ「オートマチツク」ニ閉鎖スル装置トナスベ
シ

五、木製障子米母及米松材無節良材ヲ用ヒ縲型面取、硝子
決り、召ル合セ決り、其付ケ硝子ハ押縁止トナシ見エ掛
リ上々鉋削リニ仕上ケ柄差組立開閉具合良ク取付ケ建合
セノコト

六、木製扉米母及米松材ヲ用ヒ框厚仕上一寸三分以上二枚
柄差組立鏡板ベニヤ板厚四分以上周圍小穴入レ硝子決り
入子面及附面入レ縲形隅留メニ仕合セ腰唐戸組子ハ面腰
ニ組ミ合セ硝子押縁留メトシ見エ掛リ上鉋削ニ仕上ケ具
合良ク取付ノコト

ハ、建具金物

建具金物ハ何レモ見本品ヲ提出シテ係員ノ承認ヲ受ケ入念
ニ彫込取付ケノコト箱錠ハ「コールビン」会社製又ハ同等
品トシ蝶番ハ五吋玉付砲金製ニシテ各三枚釣リトス
「ハンドル」押板、煽止メ、揚ケ落シ「グレエモン」等総
テ砲金製トス
正面玄関扉ニ限り「ブロンズ」製ヲ取付ケルモノトス
便所ニハ特ニ体裁良キ表示金物ヲ取付ケノコト

イ、使用個所

(14) 硝子工事

一、ワイヤークラス

外廻周圍全部、階段室、天窗、

二、正一分マシングラス（一部艶消トスルコトアルベシ）

中庭側窓全部、内部各出入口扉、窓、

三、モロッコ又ハ型硝子

便所出入口及スクリーン

四、面取プレートグラス

正面玄関電灯

五、ブリズム硝子

陸屋根

六、ステインドグラス

階段室天井

七、ビットロライト

時計ダイアル

ロ、材質

一、「ワイヤークラス」鋼線入り表面「ラフ」ニシテ「ス
ダレ」入りニ非ラサルモノニシテ網目不同歪形水泡等無
キモノニシテ敷パテ充分ニ嵌メ込ミ硝子止メ共堅固ニ取
付ケ押パテ入念ニ仕上クベシ

二、「マシン」正一分硝子ハ不同歪形水泡波状等ノ欠点ナ
キモノニシテ前同断嵌込ノコト

三、「ステインド」硝子現寸図ニ依リ色合見本ノ通りI字

形鉛骨ニ嵌込ミ鉛骨ノ交叉部分ハ充分ニ半田蟻付ケトシ
堅牢ニ組合セ力骨ハ真鍮骨トナシ適當ニ割合セ裏側ヘ力
骨鉄棒入レ二尺以内ニ針金ヲ以テ釣付ケコト

ハ、プリズム硝子

寸法格好見本品ニテ選定ノ上鑄鉄枠ヘ水仕舞良ク嵌込ミ
「コンクリートスラブ」ヘ取付ケコト

(9) 塗師工事

イ、使用箇所

一、「ペンキ」塗鉄部、米梅及米松、ノ部分全部三回塗
(ママ)
剛刻ノ部分ペンキ拭取二回塗

スタツコノ部分ペンキ拭取二回塗

二、水性ペンキ二回塗

腰壁、天井、

三、ワニス塗四回塗

杏摺、手摺、カウンター、陳列窓、書棚、

檜材ラワン材ノ部分(床檜材ノ部分ハ蠟拭トス)

四、メタリコン正面玄関表面全部

五、防腐剤塗二回塗

「コンクリート」ニ接スル木部見エ隠レノ部分

ロ、材質

一、鉛白極粉末ナル炭酸鉛ニシテ醋酸塩ヲ含有セズ製造後

一ケ年以上ヲ経過シタル純亜麻仁油(重量約一割)ニ混

和シ完全ニ練磨シタルモノタルヘシ

二、亜麻仁油清澄ニシテ異臭ナキ優良ナル生亜麻仁油ヲ煮

沸シ硝子盤面ニ黙滴シタル液ハ華氏六〇度ノ気温ニ曝シ

十八時間以内ニ乾燥シ光沢アル皮膜ヲ生スルモノトス

三、光明丹粉末ナル酸化鉄ニシテ色良ク不純物百分ノ一以

上ヲ含有セサルモノトス

四、テレメン油清澄ニシテ混和物悪臭等ナク比重ハ摂氏二

〇度ニ於テ〇、八六二以上〇、八七〇以下ニシテ同一五〇

度以上一七〇度以下ノ温度ニ蒸発スルモノトス

五、乾燥料亜麻仁油以外ノ油脂類ヲ含有セサルモノニシテ

其量七封度ヲ鉛白百二十封度ト亜麻仁油二ガロンヲ煉合

セタル「ペンキ」ニ混和シ塗抹後十時間以内ニ乾燥スル

モノタルペン

六、ワニス製造後六ヶ月以上ヲ経過シ塗立後二十四時間以

内ニ乾燥シ皮膜強靱光沢充分ニシテ塗立面ニ枯気ナキモ

ノトス

七、水性ペンキ米國製アラバスチン会社製「カセイン」又

ハ同程度ノ和製品ニシテ臭気ナク色素ハ鉱物質ニシテ変

色セサルモノヲ用フル

ハ、施工法

一、木部ペンキ塗下地細末ナル鏝紙ヲ以テ角線面等毀損セ

サル様摩擦シ水膠又ハ「ラック」ヲ以テ節止メヲ施シ釘

頭打沈メ純良ナル「パテ」ヲ填充シタル上第一回塗ヲナ

スベシ

乾燥後鏝紙磨キヲ加エ第二回塗ヲナシ前同断鏝紙磨キ塵

払ノ上刷毛^(ママ)村ナキ様手際良ク塗立仕上ケノコト

但シ小穴合決リ羽重ネ及建具硝子決リ等予メ一回塗ヲナシ置クヘシ

二、鉄部ペンキ塗内外鉄部見エ掛リハ表面浮錆汚泥等ヲ取去リ光明丹錆止メ塗ヲナシ前記木部ペンキ塗ニ準シ三回塗仕上ゲトス

三、ワニス塗、下地鏝紙磨キ節止メ塗ヲナシ指定ノ顔料ヲ以テ色付ケヲ為シ薄膜ニ下塗ヲナシ乾燥ノ後鏝紙ヲ以テ塗面ヲ平ニ磨キ四回塗仕上ケ下塗同様ノ方法ヲ以テ塗り、仕上塗ハ塗班粒等ナク厚膜ニ塗ルモノトス

四、水性ペンキ塗、壁面ヲ充分乾燥セシメタル後清掃シ「パテ」飼ヲナシ塗面ノ班ヲ除去シ「カセイン」ヲ水ニテ溶キ刷毛班、粒等ナキ様下塗ヲナシ乾燥ヲ待チテ「サンドペーパー」ヲ軽く当テ塵払ノ上、上塗前回ニ準シ施スモノトス

(16) 雑工事

工種及個所(施工法ハ本工事ニ準ズ)

一、渡廊下、一、二階校舎トノ取合鉄骨ラス張「モルタル」塗人造石仕上ゲ内部床「テラゾウ」壁天井「プラスチック」仕上ケ屋根アルファルト」防水小砂利散布

二、地階入口「スロープ」及校庭側階段、床階段共「コンクリート」(一、三、六)打セメントモルタル塗仕上、

三、通用門、錬鉄製格子扉ペンキ塗仕上ケ門柱鉄筋コンク

リート造人造石仕上ゲ、

四、校庭通用門、扉周囲アングル鉄板張ペンキ塗仕上ケ、

五、非常口扉、錬鉄格子扉ペンキ塗仕上ケ

六、鉄柵、柵柱鉄筋コンクリート造人造石仕上、一部壁煉瓦積人造石洗出仕上ケ柵錬鉄格子ペンキ塗仕上ゲトス

七、東側塀、在来塀ヲ移転修繕スルモノニシテ延長不足ハ補給シ指定ノ高サトナシ内外共人造石洗出仕上ゲトス

八、中庭、下地コンクリート(一、三、六)打ノ上セメントモルタルヲ以テ焼過二等品煉瓦小端ニ網代張ニ敷込ミ化粧目地共ナスヘシ

九、「リノリューム」製下地セメントモルタルヲ以テ不陸^(ママ)ナキ様村直シヲナシ充分ニ乾燥ノ後節洋「リノリューム」会社製又ハ同程度ノ「リノリューム」厚サ二、五糎敷込飯敷トナシ押ヘ付ケ充分伸長ノ後本敷ヲナシ糊付スヘシ

十、避雷針

イ、個数及位置 一ヶ所塔簷杆上ニ設ク^(ママ)

ロ、地中鉄ノ個数一ヶ所

ハ、地上ヨリノ高サ二十四米二^(ママ)

ニ、避雷針ノ主針ハ^(ママ)聖六分枝針^(ママ)聖四分何レモ銅ヲ主材ト

シテ格好寸法共図面ニ倣ヒ尖頭ニハ金渡金ヲナスモノトス

ホ、地線ハBS十番線十九本撚リ銅線又ハ之レト同等以

上ノ効力アルモノヲ用ヒ電気抵抗〇、〇二「オーム」

以下タルヘキコト

へ、地線ト避雷針トノ接続ハ地線ヲ避雷針下部ノ凹所ニ
差込ミ半田付トシ地中鋲トノ取付ハ地線ヲ約一尺五寸

撚リ戻シ扇形ニ地中鋲ニ縫付ケ半田付ケトス

地線中間ノ接続ハ其直^(ママ)七位以上ヲ重ネ合シ「バイ

ンド」線ヲ以テ締メ付ケタル上完全ナル鐵付ケヲナシ

何レモ機械的並ニ電氣的ニ完全ナラシムルモノトス

ト、地線ハ建物ノ外部ニ沿ヒ避雷針ト地中鋲トノ最短距

離ヲ咫ビ捲線又ハ急変ナル屈曲部ヲ避ケ内^(ママ)至二寸五分

以下ノ瓦斯管其他ノ金属管ヨリ六尺以上電燈線其他架

空金属ヨリ六尺以上隔離シ敷設スルモノトス

チ、地中鋲ハ厚五厘三尺角ノ銅板又ハ之ト同等以上ノ効

力ヲ有スルモノヲ用ヒ其接地電氣抵抗ヲ一〇「オーム」

以下タラシメ図面ノ位置ニ依リ常水面下ニ埋設シ其周

囲ニ木炭ヲ以テ填充スルコト

リ、避雷針柱、「アングル」ヲ用ヒ足元ハ鉄造屋根ニ組

立テ「リベット」又ハ「ボールト」締メ木材ヲ以テ格

好良ク工作シ銅板尺平方百匁目付ヲ以テ張包ミ上部柱

頭擬宝珠^(ママ)簾卷^(ママ)上用滑車「ロープ」、「ロープ」受金物

(真鍮) 共一切取付ノコト

十一、外部排水工事、堅樋落口ヨリ既設下水ニ接近セルモ

ノハ直接内^(ママ)至五寸土管ヲ用ヒ連結シ其他落口ニハ八寸

角「コンクリート」造溜柵深サ勾配ニ応ジ取設ケ集水溜

(二尺角) 又ハ既設下水道へ放流スルモノトス中庭其他

ノ集水溜ヨリ内^(ママ)至八寸土管ヲ用ヒ公設下水へ連結スルモ

ノトス溜柵蓋ハ鑄鉄製格子トシ堅^(採道)落口穴共取設ク

ヘシ

十二、書庫内鉄柱、鉄梁取付用「アンカーボールト」ハ

「コンクリート」打ト同時ニ遺形ニ倣ヒ正確ニ埋込ム事

其レニ要スル「ボールト」類ニ限り支給スルモノトス

(ウ) 電氣工事

イ、本工事ニ使用スル材料ハ凡テ良質ナルモノヲ用ヒ完全ニ製

作セラレタルモノタルヘク尚電氣工作物規程ニ準拠スル事

ハ勿論技術上又ハ外觀上当然施工スヘキ事項ハ本仕様書又

ハ係員ノ指示ノ有無ニ拘ラス完全ニ施工スベキモノトス

ロ、使用材料

一、「チューブ」及附属品

「シエラダクト」「チューブ」又ハ之レト同等品

二、電線

古川、住友、其他同等ノ製造会社製品

三、配線器具(スキッチコンセント類)

米田G、E、会社又ハ東京電氣株式会社製品及同等品

ハ、配管

一、配管ハ総テ埋込位置送り式トス

二、配管ハ鉄骨、鉄筋ノ配列以前或ハ同時ニ之ヲナシ且ツ

「コンクリート」打ニ際シ移動セサル様適當ノ方法ヲ以

テ固定セシメ施工スルコト

三、「チューブ」ハ内曲ノ半径百五十耗以下ニ屈曲スヘカ

ラズ

四、一吋以下ノ「チューブ」ハ内曲ノ半径一尺以下一吋四分ノ一「チューブ」ハ一尺五寸以下ニ屈曲セシムヘカラズ

五、凡テ管ハ山形ニ相当ノ傾斜ヲ保持セシメ管ノ中部ニ谷ヲ設ケサル様ニ為スヘシ

六、管ト型枠トノ間ハ一吋以上ニ取り「コンクリート」面ニ露出セサル様為スヘシ

七、管ノ接続ニ際シ「カップ」戻シヲナス際ニハ両端共管ヲ四山以上「カップリング」中ニ捻込ミ納ムル様ニナスヘシ

八、「アウトレットボックス」ハ八角型ヲ使用シ之レニ「フイラス」、チューア、スタッド」及ビ「カバー」ヲ取付クルコト「スイッチ」及ビ「コンセント」用「ボックス」ハ一ヶ並ニ二ヶ用ニハ四吋角型「ボックス」ヲ使用シ「カバー」取付ノコト 三ヶ以上ヲ併置スルモノニアリテハ之ヲ一ヶノ「ボックス」ニ納ムルコト

九、管ノ各終端ハ凡テ「リーマー」ニテ充分ヨク浚ヒ平滑ニシテ配線ニ際シ電線ノ被覆ヲ損傷セサル様ニ施工スヘシ

十、「ボックス」トハ管トノ接続ハ「ロックナット」ニテ充分締メ付ケ「ブッシング」ヲ取付ク可シ

十一 管ノ接続部ハ凡テ光明丹其ノ他ノ防腐剤ヲ塗リ且ツ管ノ各先端及「ボックス」ノ内部ニハ「モルタル」ノ流

入ヲ防ク為メ木栓又ハ「ボロ」ヲ填充スル事

十二、「ボックス」ヲ出入スル各管ノ相互ニハ径二、六耗以上ノ銅線ヲ以テ「ボンチング」ヲ為シ電氣的ニモ機械的ニモ堅牢ニ固着セシメ接地ヨリ管ノ最終端迄ノ抵抗ヲ一「オーム」以下ニ保持セシムヘシ

若シ一「オーム」ヲ超過スルトキハ補助板ヲ設ケテ接地ヲ完全ニナスベシ 地板ハ一米平方一、六「ミリ」以上ノ銅板ヲ以テ第三種地線工事ニ依リ埋設スヘシ

ニ、配線

一、使用電線ハ図面指示以上ノ大サヲ有スル第四種絶縁銅線トシ指定会社製品トシ量目、尺数、製造年月日試験票ヲ添付ノマ、持込ミ係員ノ許可ヲ得テ後使用スヘシ

二、配線直前管内ヲ充分適當ナル方法ニテ掃除シ「ボックス」ノ内面ヲ「エナメル」又ハ「ラック」ニテ塗り出来ル丈ケ管内ヲ乾燥シタル後配線スルコト

三、電線ノ接続ハ之ヲ三段ニ段ムキヲ為シ心線ヲ良ク磨キ完全ニ「ハンダ」揚ニハ樹脂ヲ用ヒ「ペーパスト」ハ使用セサルコト

「ハンダ」揚ヲ了シタルトキハ心線ニハ絶縁「ニス」ヲ塗布シ「ヒュアラバー」「ゴムテープ」「メンテープ」ヲ

順次ニ捲キ然ル後絶縁「ニス」ヲ其ノ外部ニ塗布スヘシ 四、配線ニ際シ各電線ノ切口ニハ絶縁「ニス」ヲ塗布シ「ゴムテープ」捲キ湿気ノ浸入ヲ防止スヘシ

五、管ノ電線収容率ハ〇、四六以下ニ取ルコト

機ニカヲ伝導スルモノトス

原動機及排気共「コンモンベース」ニ「コルクボード」ヲ敷キ此上ニ堅固ニ取付タルモノトス

ニ、各室送風量

| 室名 | 床面積 (m ²) | 窓開放面積 (m ²) | 室容積 (m ³) | 一時間換気回数 (回) | 人員 (人) | 換気量 (m ³) | 一人当換気量 |
|-------|-----------------------|-------------------------|-----------------------|-------------|--------|-----------------------|--------|
| 談話室 | 二八、〇 | 四、〇 | 七五、〇 | 三 | 一〇〇 | 二、二五〇 | 二、二五 |
| 食堂 | 一八、〇 | 一、八 | 四二、〇 | 三 | 五〇 | 一、三六〇 | 二、七二 |
| 倉庫 | 五、〇 | 四、〇 | 一五六、〇 | 一 | 〇 | 一、五六〇 | 〇 |
| 同室 | 三、五 | 二、六 | 九七、五 | 一 | 〇 | 九七、五 | 〇 |
| 一階閲覧室 | 一一〇、〇 | 三三、〇 | 五五〇、〇 | 二 | 二〇 | 一、一〇〇、〇 | 一、一七 |
| 二階閲覧室 | 一一三、〇 | 六、四 | 五八五、〇 | 一 | 三 | 五八五、〇 | 〇 |
| 書庫 | 一一三、〇 | 六、四 | 五八五、〇 | 一 | 三 | 五八五、〇 | 〇 |
| 書庫 | 四〇、〇 | 三、九 | 一四〇、〇 | 五 | 五 | 七〇〇、〇 | 一四〇 |
| 便所 | 三、五 | 四、〇 | 九七、五 | 五 | 二 | 四八七、五 | 二四三、七五 |
| 機械室 | 一一八、〇 | 五、〇 | 一〇一八、〇 | 五 | 一〇 | 五、〇九〇 | 五〇九 |
| 計 | | | | | | | |

ホ、レヂスター

排気給気共「レヂスター」ハダンパー付トシ談話室、食堂

一、二階閲覧室ハ真鍮製「ブロンズ」仕上製他ハ鉄板打出

「エナメル」仕上ケトス

(19) 衛生工事

イ、給水、玄関、配膳室、洗面所、便所等ハ水道ヨリ直接給水スルモノトス、玄関口^(カ)一吋「カラン」其他二分ノ一吋

「カラン」ヲ用フルモノトス

ロ、和風大便器、東洋陶器C、3「フラッシュバルブ」付トス

ハ、小便器、東洋陶器U、5自動「シスターン」付トス

ニ、洗面器、東洋陶器L、70「トラップ」及「ニッケル」鍍「ブラケット」付トス

ホ、給水管、給水管ハ品質取付ノ小部分ヲ除キ凡テ亜鉛引鉄管ヲ用ヒ水道会社ノ規則ニ準拠シ完全ニ施工シ耐圧試験完了後ハ壁体及床埋設以外ハ凡テ麻「テープ」及「フェルト」ヲ以テ防寒シ係員指示従ヒペンキ塗ヲナスモノトス

ヘ、排水管、排水管ハ岐管ハ凡テ鉛管ヲ使用シ主管ハ四吋铸铁管ニテ屋外溜樹ニ接続シ同溜樹ヨリ公設下水道ニ六吋铸铁管ヲ以テ直接放流スルモノトス

ト、換気管、換気管ハ各器具「トラップ」ノ頂部ヨリ鉛管ヲ以テ取出シ各器具溢流水面上一、五尺以上ノ点ニテ換気本管ニ連結ス、本管ハ^(カ)三吋亜鉛引鉄管ヲ以テ屋上ニ立上ケ頂部ニ銅板製体裁ヨリ換気笠ヲ附スルモノトス

チ、換気管及排水管ハ配管後ハ最高部ヨリ充水試験ヲ施シ係員指定ノ色合ニ「ペンキ」塗仕上トス

リ、地中布設給水及排水鉄管ニハ凡テ防水剤入り「コンクリート」厚六吋以上ノ被覆ヲ為スモノトス

ヌ、本工事ニ要スル監督官庁ノ交渉ハ請負者ニ於テ其ノ手続及費用共負担処理スベシ

ル、本仕様ハ其大体ヲ示セルモノニシテ工地上当然施工セサルヘカラサルモノハ本仕様ニ明記ナキト雖モ係員ノ指示ニ従ヒ完成スベシ

ヲ、本工事施工後不可抗力ニアラサル故障又ハ不完全ナル個所
ハ一ヶ年間ハ施工者ニ於テ無償ヲ以テ修理改良スヘキ義務
アルモノトス

(20) 消火栓工事

- イ、給水管ハ三吋市水道水ヲ東側外壁ニ添ヒ立上ゲ各階消火栓
ニ連結スルモノトス
- ロ、本管内ノ「デッドウォーター」ヲ避クル為メ本管屋上図示
ノ場所ヘ給水栓ヲ設クルモノトス
- ハ、消火栓ハ^(イ)二吋ニシテ布「ホース」三五尺ニ堀式「ヤツプ
リング」ヲ銅線ニテ堅牢ニ取付ケタルモノニ条其他回転式
「ホース」掛「ノツヅル」手斧等附属品一切ヲ銅板製筐内
ニ具備シ表面、硝子戸ニ消火栓ナル文字ヲ金字ニテ表示ス
ベシ

ニ、消火用水管及接手類ハ凡テ給水工事ノ仕様ニ準スベシ

(21) リフト工事

イ、書庫内書籍昇降用電動「リフト」ハ左記ノ「オチス」会社
製又ハ之レト同等ノ内地品ニシテ左記ノ要項ニ従ヒ設置ス
ル事

用途及動力書籍運搬用ニシテ電動機使用

最大積載量八百封度ニシテ間口三尺奥行二尺高三尺

速度及行程百五十尺(毎分)地階ヨリ屋上ニテ

昇降口数及扉七ヶ所ニシテ鉄製揚ゲ下ゲ式トス

機械室ハ屋上ニ設ケ昇降路直上トス昇降籠ハ鉄板製柵付キ

「エナメル」「ペイント」仕上ケ信号装置ハ押ボタン式自動
停止トス安全装置ハ開扉中固定装置及電氣的安全装置ヲナ
スモノトス

(裏表紙)

昭和五年三月

中央大学

設計者 工学 阿部美樹志
博士

(以下「中央大学図書館強度計算書」
図面十二枚省略)

(注記1) 「文部省、昭和5・6・7、東專308号」

(注記2) 「昭和五年六月六日、午学第六六九三号、東京府經由」

(注記3) 「一」(簿冊内件名番号)

(注記4) 「完決」「要記入スミ」

(注記5) 「回付月日/七月八日/建築」

(注記6) 「記録掛/5・7・16/受領」

(下札)

「種別」を三ノ聯繫 / 登録追加 / 件名 東京府經由、中央大学

附属図書館建築認可／番号 東專三〇八／結了年月日 昭五、七、
一一／保存年限 ムキ／枚数 一括

〔昭和5年7月 中央大学 第2〕
〔冊〕文部省④ 3A, 10-4, 1247